

青葉区民文化センター フィリアホール 令和7年度(2025年度)事業計画

東急コミュニティー・神奈川共立・横浜市民施設協会共同事業体

◎第3期の青葉区民文化センターがめざすもの

上質な文化を発信する拠点としての「フィリアホール」と、地域の文化施設としての「青葉区民文化センター」の両輪での役割はそのままに、文化事業・地域事業・施設運営の各業務を強力に連携し、「地域を音楽でつなぐ」活動を通じた地域基盤の醸成・人材育成に注力します。施設運営面でも、活動する市民団体や個人への支援応援という側面を模索します。提案に掲げている「ひと」と「まち」の未来へ文化でつなぐステーション」というビジョンスローガンのもと、地域文化を醸成する一拠点として、青葉区民文化センターは積極的な役割を様々な面で展開します。本施設の活動が、さらにその先の人々の繋がりの一助となり、その先にも分岐して様々な広がりが生まれることを期待します。

第3期の各使命と具体的な事業計画との連携確認

第3期における1～6の各使命の具体的な事業計画では、文化事業・地域事業・施設運営・施設管理の各事業が、相互に連携協働し、各々の事業範囲の中で、関連する使命の達成に向けた役割を担います。事業計画においては、各事業毎に計画を立て、その中での各業務と各使命との連動を表記していきます。

◎各使命の遂行の具現化

●使命1:文化芸術の活動と体験の場となる

- ・文化芸術に関する活動と体験の場を提供することで、市民の活動を支援

使命1を達成する中心となるのは施設運営業務です。本施設が、日ごろの成果を発表する場、日々の練習など、文化活動の場としてご利用いただくため、「利用者ファースト」の対応を行います。利用者の活動を、技術サポート、広報支援等を通じて支援していきます。地域の活動支援として、地域事業における企画イベントや、施設外拠点での活動のコーディネーター役を担います。地域の施設とのネットワークを生かし、様々な拠点でも活動が展開できるための支援を行っていきます。活動支援の観点から、文化事業・施設運営・地域事業の各担当の総合作業として、アーティストデータベースの構築を行い、市民団体や個人の活動の支援ができるようにしていきます。

●使命2:文化芸術活動を担う人材を育む

- ・地域で文化活動に興味を持ち、活動を主導する人材を増やし、地域住民の文化芸術活動の可能性を拡充

使命2の実現のために、文化事業と地域事業の連携で「文化活動に興味関心を高めるための体験・鑑賞機会」創出を図り、そこから本格的な「高水準なアーティスト・地域の音楽家の育成」そして「文化事業を企画し、支えるべく地域の人材育成」を進めます。区民企画やアウトリーチ企画を通じて、地域の活動家や地域の企画の醸成を担い、また区民サポーターなど各企画に協力する人材育成にも努めます。

●使命3:文化芸術の鑑賞の機会を提供する

- ・音楽を中心とした質の高い文化芸術に触れる機会を提供し、感性豊かで多様な価値観を受け入れる区民文化醸成に貢献

使命3は、文化事業による鑑賞機会の提供を中心として達成を目指します。横浜市内さらには国内外を代表する音楽ホールとして、世界的に見てもクラシック音楽の上演劇場として非常に高水準な音響を実現できるフィリアホールの名に相応しい、高品質な音楽芸術鑑賞機会を提供するとともに、音楽に親しみのない方も含む多くの方々が気軽に参加し、楽しみ、体感できる企画も並行して開催します。ホールとアーティストが連携した若手育成プログラムの企画など、新規育成・教育事業にも取り組みます。

●使命4:幅広い人を受け入れ、地域を結びつける

- ・社会的包摂を踏まえた利用者本位の運営。文化施設としての役割と専門性をふまえ、地域コミュニティのベースとなる文化的コモンズの形成に寄与

使命4は、地域事業の分野を中心に実現を目指します。これまで築いてきた地域とのネットワークをさらに拡充していくために、新たなネットワークを開拓し、地域コミュニティ・地域の文化的コモンズ形成をめざします。第3期も地域をつなげることをビジョンに掲げる中で、本施設内での企画、外部拠点へのアウトリーチ、地域全体を巻き込む企画展開などを引き続き実施・検討を行っていきます。加えて、施設運営の分野でも社会的包摂を意識し、(ハード面での課題を除き)あらゆる人が足を運んでいただける工夫を行います。

●使命5:持続可能性を高める施設運営を行う

- ・保守/点検や予防的修繕などの維持管理、安全快適な施設維持。効率的経費執行や収入増により、安定的施設運営

使命5は、施設管理部門を中心として実現を目指します。何よりも施設運営における最低限の前提である、安全・安心でホスピタリティを提供できる施設を目指し、日常点検保守、小破修繕などを効率的に連携させ、施設維持管理業務を推進します。劣化の進む施設設備に対しては、市及び区とも協議し、大きなトラブルになる前の事前の更新工事を進めるようにし、必要な計画立案を行います。予防保全の徹底、適切な修繕を励行し、適切な収支による運営管理を行います。

●使命6:不測の事態(新型コロナウイルス感染症等)の影響を想定し、施設運営を継続する

- ・感染防止対策の下、各業務を実施し、市民活動基盤となる施設運営を継続。その他感染症や不測の事態でも適切な対策により、継続して利用できる施設運営継続

使命6はすべての部門が共同して対応し、不測の事態下でも継続して安心して施設利用ができ、文化事業の開催ができる体制を整えます。疾病のほか特に防災に関するマニュアルを見直し、対応力を強化していきます。

●総合的な運営管理の使命

第3期の運営方針として、8つの方針を掲げました。①公正公平平等な施設管理、②安全かつ適正な維持管理、③適正かつ健全な収支構造、④円滑な業務執行体制、⑤危機管理の徹底、⑥地域とのネットワーク構築、⑦個人情報保護、⑧地域への還元。

指定管理料を中心に、利用料収入・自主事業収入による収入と必要な支出の適正化を図り、協賛金等の外部収入も模索していきます。物価やエネルギー単価高騰などの社会背景の中で、削減できるもの等の見直しを行いながら、安定した収支構造が保てるようにしていきます。管理運営と事業企画の各々に精通した必要スタッフ要員を配置し、機動的かつ風通しの良いフラットな組織で運営し、サービス向上や新たなノウハウによる、様々な新規の活動展開ができる土壌を生み出していきます。

◎第3期3年度目 令和7年(2025年)の青葉区民文化センターがめざすもの

令和7年(2025年)は、第3期3年度目にあたります。引き続き当期の基本ビジョンと各使命の目標を踏まえつつ、更なる事業充実と使命達成への活動充実促進を行います。令和7年のホール自主事業では、前年度に引き続き高水準な自主事業(コンサート・イベント)および地域の地区センター・コミュニティハウス等と連携した地域企画を実施します。地域事業は第3期2年度目に実施した区制30周年記念連携イベントの実績を踏まえ、今後同様の連携がより深い意義をもつ活動となるよう、文化事業担当や地域施設との連携をさらに強化し、ブラッシュアップした企画を実施していきます。施設運営では、特にホール利用促進のための方策を検討しより多くの方の利用促進を図るとともに、また利用者の利用満足度向上、適正な利用につながることを意識した施策を行います。ホールでは経年劣化が進んだ各種機器類の維持管理を綿密に行い、改修による延命、不測のトラブル回避を図ります。全体を通して費用管理に努め、高騰する光熱費とのバランスを取っていきます。

第3期令和7年(2025年)の各事業計画の基本方針(…以下は各使命との関連) 詳細は各事業計画にて記載

●文化事業…使命1・2・3の達成に向けて

令和7年(2025年)の文化事業も、引き続き上質なクラシックコンサートを中心とした「コンサート・シリーズ」と、気軽に参加でき楽しめる音楽体験および学びを主眼に置いた「エデュケーション&コミュニティ(E&C)・プログラム」の2軸で展開します。「コンサート・シリーズ」は、シリーズ改定後軌道に乗りつつある「土曜マチネシリーズ」、平日昼公演が好評を博す「ランチタイム・コンサート・シリーズ」「神奈川フィルの名手による室内楽シリーズ」等を引き続き内容を向上させて実施するとともに、世界トップのアーティストが出演するコンサート、ミュージカル俳優とのコラボレーション企画、チェロ&箏など異ジャンル協働の企画を取り入れるなど、新機軸の企画も開催します。「E&C」でも地域の各コミュニティとの連携、地域とのつながりを強く意識した視点を取り入れた展開を行い、前年度好評を博した地域団体の連携企画「竹フェス」の継続実施、区内の地区センター・コミュニティハウスの連携企画を行います。ミュージックアカデミー・プログラムでは人材育成や音楽家育成の視点を多く取り入れ「マエストロの白熱教室」「フィリアホール室内楽アカデミア」を引き続き開催・展開します。

●地域事業…使命1・2・3・4の達成に向けて

令和7年(2025年)の地域事業も、引き続き基本ビジョンに示した「ステーション施設」となり使命4の「文化的コモンズ形成」への寄与を中心にした活動をさらに深めて展開します。新たな連携ネットワーク開発に積極的に取り組み、地域施設や地域の人々を幅広く取り入れるための活動を展開していきます。また文化事業と施設運営の分野をさらに密接に連携させ、本施設を中心にあらゆる施設や場所に音楽を届けるため、地域の施設へのアウトリーチ活動のさらなる充実と質の向上を図ります。区民企画や各施設との連携企画実施を通じて、文化事業を担う地域の人材育成にも重点を置き、地域の方々と協働した企画の展開、事業の拡充を図ります。

●施設運営…使命1・4・5・6の達成に向けて

令和7年(2025年)の施設運営では、「利用者ファースト」を基礎に、さらに利便性が高まるシステムを導入するとともに、利用者である区民が「公平・平等」かつ「適正」に施設をご利用いただけるサービスを提供・検討します。昨年度開始のWeb予約システム上決済に加え、窓口でのキャッシュレス決済対応を年度内早め開始します。引き続き各施設の安定した高稼働維持を目標とするとともに、利用を通じた打合せや本番のサポートを通して、地域の人達のイベント企画運営のノウハウ・知識向上・習熟・育成につながる取り組みを行います。施設を利用する団体・個人との連携をさらに深め、地域文化向上に協働して取り組むためのデータベース構築、活動支援の基盤づくりを本格的に進めます。

●施設管理…使命5・6の達成に向けて

令和7年(2025年)の施設管理業務は、各事業が円滑かつ効果的に実行に移せるように、施設の保守保全、効率的運営推進をさらに進めます。安心・安全・快適な施設環境の維持と向上のため、経年劣化が進む各種設備や各種機器類の改修更新・機能向上を、長期的視野に立って進めていきます。SDGsの取り組みや環境整備、収益体制の確立により、各事業の展開基盤を作ります。組織内では企画制作担当者の交代と企画制作補佐担当の新選任を行い、新体制による組織と要員の連携強化を図ります。

●令和7年(2025年)での新たなノウハウやサービス向上

第3期提案では、新たな施設活性化への取組として、利用促進・利用継続・広報活動の3分野での提案をしています。令和7年(2025年)では前日の窓口での施設利用料金支払に関するキャッシュレス決済導入をはじめ、チケットサービスでもチケットレスシステムの導入・チケットのない公演でのWeb申込サービスの導入などを行う予定です。広報や情報収集面では、LINE、Instagramなど若年層を意識した新規のWebサービス稼働と、高齢者等を想定したアナログなサービスとの両立を図り、「すべての人」に伝わる広報の仕方を引き続き進めていきます。

●「第3期3年度目の事業計画全体方針」

前年度に引き続き、提案に掲げた「文化発信」「人材育成」「地域活性化」といった諸課題に対して、一つ一つ結果を出していける地道な取り組みを重視していきます。令和7年は前年度の青葉区制30周年に向けた取り組みで得られた実績を反映し、「地域活性化」「地域コミュニティ」をより意識した企画の実現を目指します。各使命の達成に向け、各事業を安定して展開していく基礎を作り、その中から提案してきた項目を着実に一つ一つ具現化し、実行し、その成果を広く区民、市民に広げていくようにしていきます。

I. 第3期の文化事業の基本方針

1. 文化事業活動の基本方針

第3期の文化事業の基本は、使命3の「文化芸術鑑賞の機会提供」です。フィリアホールが発信する高品質な文化の発信は、地域事業とも連携し、地域の人々に上質な音楽を届けていく事業を展開します。使命2の「人材育成」に関連した企画も展開していきます。第3期文化事業も、優れたコンサートを発信する「コンサート・シリーズ」と地域との連携や人材育成を重視した「エデュケーション&コミュニティ・プログラム」の2軸での展開を図ります。

2. 第3期の「コンサートシリーズ」構成

多数のコンサートシリーズが乱立していた状況を見直し、「(土曜ソワレ)女神との出会い」「(JUST ONE WORLD)ただ一つの世界」「(マイ・フィールド)私の人生、私の音楽」「(土曜ティータイム)音楽のある風景」「フィリア・ハイムコンツェルトシリーズ」の5シリーズは2023年5月をもって発展的解消し、第3期からは新たに「土曜マチネシリーズ」「ランチタイム・コンサート・シリーズ」「神奈川フィルの名手による室内楽シリーズ」の3シリーズを主軸として展開します。

また、ホールの音響に最も相応しい「室内楽」分野に特化した「山崎伸子プロデュース 輝く若手演奏家による『未来に繋ぐ室内楽』」、東京音楽大学との連携で実現している貴重な指揮科公開授業「マエストロの白熱教室」も、アーティストを軸とした「アーティスト・プロデュース・シリーズ」として、年1回の恒常開催シリーズに位置付けていきます。さらに開館以来全国各地から集客している海外アーティスト招聘公演、年度ごとに特色あるコンサートは、シリーズの枠に収められない単独での開催も積極的に行うほか、第3期5年間通じての特別企画として「日本におけるクラシック音楽発祥の地・横浜」の歴史を音楽とトークでたどる特別シリーズ「横浜音楽物語」を引き続き展開します。

3. 第3期の「エデュケーション&コミュニティ」の構成

第3期のエデュケーション&コミュニティ(E&C)・プログラムの展開は、第2期に続いて、「キッズ&ファミリー」「ミュージックアカデミー」「地域コミュニティ」の3プログラムを軸に構成します。

「キッズ&ファミリー・プログラム」は、夏・冬のファミリーコンサートや、幼児向けのコンサートやワークショップを展開します。誰もが楽しく音楽に触れあえ、そして癒される時間を提供していきます。

「地域コミュニティ・プログラム」では、ロビーコンサートやオープンデーといった形で、気軽な音楽体験や楽しみの醸成を図ります。あらゆる人々を受け入れる企画を提案し、音楽を通して地域の方たちが集える空間を目指します。

「ミュージックアカデミー・プログラム」は、「人材育成」という視点を重視し、今までのラインナップを踏襲しながら、引き続きマスタークラスやレクチャーコンサートなどを重視した企画を実施していきます。中高校生、地域の音楽家そしてプロを目指す若手のための様々な企画を提供していきます。

II. 令和7年(2025年)の文化事業計画

1. 令和7年(2025年)のコンサート・シリーズ展開

●「土曜マチネシリーズ」

開館以来300回にわたり長期支持を得ていた、土曜ソワレシリーズ《女神との出会い》の後継として開催する、フィリアホールのコンサート・シリーズの中核をなすシリーズです。公演時間が夕方(ソワレ)から、より足を運びやすい土曜14:00の昼(マチネ)公演に移行し、《女神》シリーズで出演が難しかった男性アーティストも積極的に紹介し、国内アーティストをはじめとする幅広いアーティストが登場します。

令和7年は8公演実施。中堅～ベテランの高水準なシリーズ企画から、ホール初登場の気鋭の若手奏者まで取り上げ、ホールの主軸となるコンサート展開を図ります。青葉区に所縁深いヴァイオリニスト千住真理子のリサイタルも開催。ラインナップの詳細は別途記載。

●「ランチタイム・コンサート・シリーズ」

従来好評を博していた《らん・らん・ランチにいい音楽》シリーズの後継シリーズ。引き続き平日昼でチケット料金1500円のコンセプトは変えず、多彩なジャンルで楽しさを感じられる内容にしていきます。「気軽さ」と「本格的クラシック」の両立を趣旨にした企画で、一流のクラシック音楽を気軽に体験し、興味を喚起する企画として展開します。

令和7年は6公演予定。優れた若手アーティストに加え、今年度はベテラン打楽器奏者によるマリンバ・デュオや、歌唱とリュートによるルネサンス歌曲など、クラシックにこだわらないクロスオーバーなジャンルの企画も開催。ラインナップの詳細は別途記載。

●「神奈川フィルの名手による室内楽シリーズ」

神奈川県、横浜市を代表するプロオーケストラ・神奈川フィルハーモニー管弦楽団の首席奏者ほか精鋭たちによる室内楽シリーズ。毎回好評を博し、ホール主催公演・共催公演の各1回を実施します。首席ソロコンサートマスターの石田泰尚氏を含む精鋭による室内楽公演は、毎回新たな試みで名曲を披露し、フィリアホールの新たな発信の一翼を担っていただいています。

●シリーズ以外の単独企画

曜日や料金といったシリーズ特有の縛りにとらわれず、その年ごとに話題性やテーマにそって国内外のトップ・アーティストたちのコンサートをこれまで以上に柔軟に展開します。令和7年度は、ノルウェー出身の世界的ピアニスト、レイフ・オヴェ・アンズネスのリサイタルや、スウェーデン出身の巨匠メゾソプラノ歌手アンネ・ゾフィー・フォン・オッターのリサイタルなど、従来東京都心のみで開催されていた世界最高峰クラスのアーティストによるリサイタルを開催するほか、一方で加来徹(バリトン歌手)と上原理生(ミュージカル俳優)の共演コンサート、宮田大(チェリスト)と横浜市出身の若手注目箏奏者・LEOの共演など、異ジャンルとのコラボレーション企画も実施。ラインナップの詳細は別途記載。

●第3期を通した特別企画:「横浜音楽物語」

日本の西洋音楽の歴史において極めて重要な役割を果たした「横浜」という土地で何が起ったか、その歴史を、実際の演奏と共に知ってもらい、地域住民の文化的な関心を高めるとともに、横浜市の中心部から離れた青葉区だからこそできる、新たな「横浜」への文化的アイデンティティの醸成に寄与する企画として、年1回で5回(または6回)のシリーズ展開を行います。

第3回目は、横浜を代表する声楽家・佐藤美子に焦点を当て、文化芸術プロデューサー・浦久俊彦による講座、日本を代表するソプラノ歌手・森谷真理とのトーク&コンサートを開催。またもう一軸では横浜を代表する作曲家・中田喜直に焦点を当てた講座も開催。聴くだけでなく学びになる企画を目指します。

●令和7年(2025年)に開催する特別企画

◎横浜市／青葉区ゆかりのアーティストによる公演

第3期を通じて、横浜市・青葉区に所縁ある演奏家の企画をコンサート・シリーズ全般で取り上げています。令和7年は、青葉区に長く居住し特にゆかり深いヴァイオリニスト・千住真理子のほか、青葉区在住のマリンバの巨匠・神谷百子、横浜出身の若手箏奏者・LEOが出演する公演を開催。また、フィリアホールでの出演が演奏家としてのデビューであった人気ヴァイオリニスト・服部百音が、横浜市在住のNHK交響楽団第2ヴァイオリン首席奏者・大宮臨太郎をコンサートマスターに迎え、横浜と近隣地区にゆかりあるメンバーで結成予定の「N響メンバー」による室内オーケストラとともに共演するニューイヤー・コンサート《モーツァルト饗宴》を開催します。

◎世界的巨匠によるリサイタル／クラシック音楽以外のジャンルとのコラボレーション企画

従来好評を博してきた、世界最高峰のアーティストの企画を複数実施します。特にノルウェー出身の世界的ピアニスト、レイフ・オヴェ・アンスネスのリサイタル、同じく世界を代表するメゾソプラノ歌手アンネ・ゾフィー・フォン・オッターの来日公演は、従来だと東京都心のみで開催されるようなきわめて高水準な演奏会で、クラシック音楽を鑑賞するコンサートホールとしてのフィリアホールの音響クオリティを最大限に生かし、地域住民に世界レベルの芸術に触れる機会を提供します。その他にもマリオ・プルネロ(チェロ)、アレクサンドル・メルニコフ(ピアノ)、ジャン・ロンドー(チェンバロ)など多数のアーティストが出演。一方でクラシック音楽になじみのない方でも楽しめる異ジャンルとの協働企画として、バリトン歌手・加末徹とミュージカル俳優・上原理生、チェリスト宮田大と箏奏者LEOのデュオコンサートを開催します。

2. 令和7年(2025年)のエディケーション&コミュニティ・プログラムの展開

●キッズ&ファミリー・プログラム

「キッズ&ファミリー・プログラム」では、引き続き0才のお子様からファミリー層が楽しめる企画を実施します。入場可能年齢を0歳からに引下げた夏・冬のファミリーコンサートは、家族が一緒に楽しめるとともに、年齢層に合った内容にさらにブラッシュアップを図ります。また平日午前の開催で好評を博しているホワイエで開催の「プチ・コンサート」は、これまで以上にバラエティ豊かなアーティストの出演を実現し、乳幼児と保護者の両方が楽しみ癒される企画を年2〜3回実施していきます。こうした企画では引き続き若手アーティストを積極的に起用し、活動支援の一環として、若手音楽家達に活動の場の提供を進めます。

●地域コミュニティ・プログラム

「地域コミュニティ・プログラム」では、音楽に関心がなかった方を含む、より多くの地域の方に足をお運びいただけるイベントにそれぞれブラッシュアップを図り、これまで以上に「地域密着」「社会的包摂」の視点を意識し、多くの方に青葉区民文化センターでの一日を楽しんでいただく企画を、時に地域団体との協働といった形も含め実施していきます。毎年夏に開催している「オープンデー」はさらなる集客向上を目指すとともに、来場者がホールや音楽のことを知り、充実した体験ができるよう、内容をブラッシュアップしていきます。またフラメンコやジャズなど従来にないジャンルの音楽分野を取り入れてきた、ホワイエで開催する「ロビーコンサート」は、音楽に詳しくない地域の方でも気軽に足を運べ、国際交流といった分野にも貢献できる企画になるよう見直しを進めて行きます。また地域コミュニティを考えた企画は、学校や福祉施設を含む施設や地域事業者との連携協働により、区民文化センター外での文化体験の機会創出も行います。

●ミュージックアカデミー・プログラム

「ミュージックアカデミー・プログラム」は、引き続き第3期の使命でもある「人材の発掘・育成・支援」という観点を存分に取り入れた企画を展開していきます。従来から継続している、国内を代表する指揮者・広上淳一氏の「マエストロの白熱教室」、チェリスト・山崎伸子氏の「未来に繋ぐ室内楽」の二本を継続実施していきます。若手音楽家の発掘育成を目的とする「フィリアホール室内楽アカデミア」も継続して開催。今年度は新たな人材発掘と共に、巣立った未来ある若手演奏家のコンサートも企画します。

3. 国内・地域で活動する優れた音楽団体との共催事業の実施

国内外の優れたアーティストによるリサイタル、地域のオーケストラ公演などを、共催公演として年間5〜10本程度実施します。従来のネットワークを生かし、ホール主催では実現が難しい、幅広いジャンルの文化芸術を提供します。貸館で実施してきた優良公演についても、これまでより積極的にサポートします。広報の販促等も積極的に行い、従来以上に密な開催の促進を検討します。また地元根付いている各種音楽コンクールとの連携も強化し、協力事業として積極的に支援をし、若手の発掘に協力していきます。

4. 文化事業の安定化のための広報販促の充実・利便性向上

文化事業は、高水準な内容という質的実績はもちろん、集客実績という量的実績の達成も非常に重要な業務と認識しています。事業収入の安定的な確保、より多くの区民に鑑賞していただくために、広報活動を方法や費用を見直ししていきます。新たに登場するSNSやWEB広告をはじめ、紙媒体のより効率的な利用、Webサイトのブラッシュアップ、区広報誌、タウン誌や音楽専門誌の広報活用など、様々な方法で情報を届けます。現状のX(旧Twitter)に加え、Instagram、LINEなど新たなSNS販促も検討し実施します。チケット予約・販売においては、キャッシュレス・電子マネー対応に続き、チケットレスシステムの導入に取り組みます。令和5年から設定した学生券に代わる若年層向け割安チケット「U25」についても販売法の見直しによる利用向上を進めていき、高齢者、障がい者に配慮した販売方法や告知方法も併せて充実させます。

◎令和7年度(2025年度)コンサート予定ラインナップ

土曜マチネシリーズ	
クリストフ・コワン チェロ・リサイタルwith金子陽子(フォルテピアノ)／カール＝ハインツ・シュッツ&吉野直子 フルート&ハーブ デュオ・リサイタル／周防亮介 & イリヤ・ラシコフスキー ヴァイオリン&ピアノ デュオ・リサイタル／河村尚子 ピアノ・リサイタル／千住真理子 ヴァイオリン・リサイタル(デビュー50周年記念)／三浦友理枝 ドビュッシー・ピアノ作品全曲演奏会 第4回(最終回)／仲道郁代 & ウェールズ弦楽四重奏団ピアノ五重奏曲プロジェクト(第3回)／小林沙羅 & 福岡洸太郎ドイツリート企画(第3回)	
ランチタイム・コンサート・シリーズ	
石井楓子 ピアノ／神谷百子 & 西久保友広 マリンバ・デュオ／アレクサンドロ・ベヴェリ&浜野与志男 クラリネット&ピアノ／橘和美優 ヴァイオリン／笹沼樹 チェロ／Vox Poetica: 佐藤裕希恵(ソプラノ) & 瀧井レオナルド(リュート／テオルボ)	
神奈川フィルの名手による室内楽シリーズ	
「ハンガリーの室内楽」※石田泰尚氏出演	
シリーズ以外の単独企画	
マリオ・ブルネロ 無伴奏チェロ・リサイタル／加来徹(バリトン) & 上原理生(ミュージカル俳優)デュオ・コンサート／レイフ・オヴェ・アンネスネス ピアノ・リサイタル／アンネ・ゾフィー・フォン・オッター メゾソプラノ・リサイタル／アレクサンドル・メルニコフ ピアノ・リサイタル／宮田大(チェロ) & LEO(箏)デュオ・コンサート／ジャン・ロンドー チェンバロ・リサイタル	
ニューイヤー・コンサート	
服部百音(ヴァイオリン) & N響メンバーによる室内オーケストラによるモーツァルト協奏曲	
横濱音楽物語	
横濱音楽物語 第3回 ナビゲーター: 浦久俊彦 演奏: 森谷真理(ソプラノ) 他	
Eデュケーション&コミュニティ・プログラム	
・山崎伸子プロデュース「未来に繋ぐ室内楽」Vol.9 クアルテット風雅 ・「マエストロの白熱教室2025」指揮者・広上淳一の音楽道場 ・フィリアホール室内楽アカデミア: 修了生コンサート「アカデミア・コンサート2026」 ・夏・冬のファミリーコンサート・プチコンサート／ロビーコンサート／ワークショップ	

◎令和7年(2025年)文化事業の収益予想

コンサート・シリーズ					
公演(シリーズ)名		開催想定概要	令和7年(2025年)実施想定	年間収支(税抜千円)	
土曜マチネシリーズ		原則 土曜 午後2時間・休憩あり	4・6・8・9・11・12・2・3の各月予定	収入	16,303
		平日 昼1時間・休憩なし		支出	12,901
ランチタイム・コンサート・シリーズ		平日 昼1時間・休憩なし	7・9・11・12・1・3の各月予定	収入	2,643
				支出	3,005
神奈川フィルの名手による室内楽		企画時設定	自主5月・共催で8月開催予定	収入	1,282
		(共催でも実施)		支出	1,108
シリーズ外特別企画		企画時設定	6・10・11・12・1・3の各月予定	収入	26,746
				支出	25,065
ニューイヤーコンサート		新年1月中	1月予定	収入	3,161
				支出	3,652
横濱音楽物語		企画時設定	5月予定(関連講座を4・9の各月に開催予定)	収入	2,291
		年1回		支出	2,071
Eデュケーション&コミュニティ・プログラム					
公演(シリーズ)名		開催想定概要	令和7年(2025年)実施想定	年間収支(税抜千円)	
ミュージックアカデミー・プログラム		企画時設定	9・10・3の各月予定	収入	1,524
				支出	2,229
キッズ&ファミリー・プログラム		企画時設定	ファミリー8・12各月・プチコンサート等適宜	収入	835
				支出	1,443
地域コミュニティ・プログラム		企画時設定	適宜	収入	323
				支出	844
アウトリーチ・プログラム		企画時設定	適宜	収入	560
				支出	630
フィリアホール共催公演		令和7年(2025年)予定ラインナップ ()内数字は想定実施月			
共催コンサート		ニューニュー(ピアノ)(4)／アンジェラ・ヒューイット(ピアノ)(6)／シュテファン・ヴラダー(ピアノ)(7)／神奈川フィルの名手による室内楽シリーズ(8)／金子紗弓(ソプラノ)(11)／アリス・アデル(ピアノ)(2)／Concert for KIDS(2)			
マスタークラス・コンクール		かながわ音楽コンクール予選・本選会／フレッシュ横浜音楽コンクール			
その他協力公演		TSUKEMEN／フィリア・ジュニア合唱団(共催)			

I. 第3期の地域事業活動の基本方針

1. 地域事業活動の基本方針

第3期の地域事業は、使命4の達成を中心とします。社会的包摂を意識し、地域文化施設の専門性を踏まえた地域コミュニティ形成・地域コモンズ形成に寄与していきます。第2期でのつながりを発展拡大させ、地域の拠点や区役所と情報・意見交換を行いながら、青葉区全体がフィールドとなり、活動拠点を更に拡げていきます。多様なニーズに対応できる信頼関係を構築させ、より発展させていくことを目指します。青葉区民文化センターが、地域人材との協働事業を推進する一方で、新たな人材育成や地域での活動を模索する音楽家たちとも連携し、育成支援していきます。

地域事業の展開は、前述の通り「多様なニーズ」に対応していくことが基本であり、社会的包摂の意味を考えて、実施するコンサートやアウトリーチの数をやみくもに増やすのではなく、一つ一つの事業を「意味ある」形で開催することが大切と考えます。社会的包摂(ソーシャルインクルージョン)は、参加する人々が相互にエンパワーメントを得られる事業だと認識しており、その基本的活動の軸足を確かめながら着実に実施していきます。

2. 地域事業活動と他の事業分野の連携強化

第3期は、組織体制として、館長が事業総括責任を担い、文化事業はもちろん、地域事業や施設利用での活動支援などの文化的事業の全体を俯瞰し、相互に連携を強化させる体制を強化します。これにより、専門性が高い文化的事業のフィリアホールの音楽を地域に連携させ、市民の活動を地域に結び付ける支援策も実施していきます。

3. 地域コーディネーターの役割

専任で配置する地域コーディネーターは、文化事業コーディネーターや施設管理責任者と協力し、地域における「青葉区民文化センターの顔」として、地域に根差した活動を行います。地域の情報や課題にアンテナを張り、幅広い人と会話することで、求められていることを把握します。連携先との繋がりを構築し、各施設の特色を生かした事業を企画することで、更なる魅力を引き出し、「地域の事業」として発展させていきます。

II. 令和7年(2025年)の地域事業活動

1. 文化事業と連動する活動

●エデュケーション&コミュニティ(E&C)・プログラムとの関連事業

文化事業のE&Cプログラムの中でも特に「キッズ&ファミリー」と「地域コミュニティ」の2分野を主に担当します。ファミリーや幼児向けのプログラム、ワークショップやミニコンサートは、参加することもだけでなく保護者も一緒に楽しんでいただける内容等をさらに吟味し、企画を実施します。高品質なホールと地域の文化拠点という「二つの顔」が、ともに互いの力を発揮し、連携しあう事業活動として位置づけます。

◎地域の子どもたち・ファミリー層に向けた活動

企画	時期	企画概要及び計画概要
夏休みファミリー・オーケストラ・コンサート	8月	「プチ・コンサート」よりもやや高い年齢層(3才～小学生まで)を想定しながら、0歳から入場可能とし、家族全員で鑑賞・参加できることを意識した内容にさらにブラッシュアップしていきます。地域で活動する演奏家に出演いただいたり、出演者と聴衆のふれあい時間を積極的に設けるなど、地域との連携・社会的包摂をさらに意識していきます。
クリスマス／ウィンターコンサート	12月	

◎0歳からの乳幼児・子供たち、そして子育て世代層に向けた活動

企画	時期	企画概要及び計画概要
プチ・コンサート／ワークショップ	年3回程度	ホワイエというフラットな空間で、乳幼児と保護者が気軽に楽しめ、子育てに忙しい保護者にひと時の癒しを届ける企画です。対象年齢ごとに内容を変化させ、吟味、改良を重ねて、より楽しめる企画にしていきます。ファミリーコンサートや、区民企画で実施されることも向け企画と合わせ、通年で足を運んでいただけるスケジュール調整を意識します。

◎地域住民に向けた活動

企画	時期	企画概要及び計画概要
フィリアホール・オープンデー	8月	施設の全てを案内し、コンサートホール、クラシック音楽について知ってもらい体験するお祭りイベント「オープンデー」は、さらなる集客向上、幅広い層に楽しんでいただける内容のブラッシュアップを引き続き行います。クラシック音楽になじみのない地域住民にも、より気軽に音楽に触れる機会を創ることを意図する「ロビーコンサート」も、メリットであるバリアフリー空間ならではの内容を意識しながら、より多くの皆様に足を運んでいただける内容を検討します。
ロビーコンサート	年2回程度	

2. 市民協働促進に向けた活動

●市民協働促進に向けた活動

市民協働の活動により潜在的ニーズが顕在化し、知恵やネットワークにより新たな事業が生まれます。企画に参加する人材の育成に組み込み、地域活性化と次世代へ継承する役割を醸成します。誰もが参加できる企画を協働で実施します。地域の人達自らが「地域コーディネーター」となれるよう、密度の高いコミュニケーションと育成に力をいれます。

◎市民協働型の区民企画の実施

企画	時期	企画概要及び計画概要
区民企画公募・選定・協力実施	通年	引き続き区民企画を公募し、「区民による区民の事業」を発掘、バックアップすることで、区民が自主的に企画・制作ができるようサポートを行います。地域課題の解決に繋がる企画案を募集し、本施設とともに協働して事業化します。区民企画主催者には、企画運営に必要な経験・知識を得ていただき、事業を継続して遂行できる人材育成を行います。

●市民企画と施設の共同主催による共同開催企画

令和6年度(2024年)まで継続開催を行っていた地域連携企画「あおばカノン」の休止に伴い、地域福祉団体・施設との協働企画の在り方を再検討します。青葉区地域子育て支援拠点ラフルとの共催企画、また令和6年度(2024年)に初開催を行い各所で好評を博した地域住民による持込企画「竹フェス」の共催など、新たな企画の開拓を進めます。

◎市民協働・人財育成に向けた活動

演奏家・音楽愛好家向けの講座実施	音楽愛好家、また活動する演奏家向けに、専門的な音楽ワークショップを学ぶ場などを提供していきます。地域施設の特色や、障がい、育児、介護者の当事者の声を聞く機会等を設けます。
区民サポーターの育成	地域で文化事業を支えるサポーターとして、誇りや自信を持ちながら活動をしていく上で必要な知識や意識してほしい分野を学ぶ場を提供します。
フィリア・ジュニア合唱団	「区民企画」から生まれた「フィリア・ジュニア合唱団」は、令和6年度からの運営委員制度を引き続き進め、市民主体の運営によるこども達の育成を目指すため、団体独立に向けた支援・サポートを行います。
音楽家の活動の場支援	音楽家を地域の施設や団体へ繋げ、相互の活動へつなげていくコーディネートを行います。

3. 地域連携・地域コミュニティ形成に向けた活動

●地域連携・アウトリーチ活動

継続して地域の様々な施設や団体と連携協力していきます。従来より継続している横浜市芸術文化プラットフォーム事業による小中学校への演奏者派遣アウトリーチはもちろん、それ以外の様々な場所に積極的に出向く活動を展開します。商業施設、町内会、商店街、企業、個人、地域の施設、団体に、積極的に演奏家を紹介していきます。またホールまで来ることが難しい地域の方にも生の音楽・文化を届けられる、福祉施設や団体と協働した活動、地域施設との交流を踏まえた地域課題にアプローチをする活動を行っていきます。

新たに広げたいネットワーク先

青葉区国際交流ラウンジ／地域の中・高・大学(青葉六大学他)／地域の飲食店他施設

◎令和7年(2025年)の主要な企画

・学校連携アウトリーチ

横浜市芸術文化教育プラットフォームアウトリーチ	下期	学校、アーティスト、事務局と連携し、アーティストと学校現場を繋げ、「こどもたちに何を伝えるのか」という基本を共有したうえで、こどもたちが学校ではなかなか体験できない実りある経験を得られる出逢いの機会を創造します。
その他の学校・福祉施設		従来プラットフォーム事業の補助対象外の学校でもアウトリーチを実施しており、今年度も学校側の要望をヒアリングしながら、多くの学校へのアウトリーチを検討します。また、あおば支援学校や各学校の特別支援学級など、障がいをもつこどもたちの場所にも音楽を届ける活動を継続・強化するとともに、インリーチとして学生に施設に来ていただく連携なども検討します。

・地域施設連携アウトリーチ

地区センター・コミュニティハウス連携	適宜	青葉区内の地区センターやコミュニティハウス等との連携では、これまで様々な「場＝拠点」に音楽を届けることができ、コンサート開催は多くの人と触れ合い、新たな繋がりを構築できてきています。引き続き地域の音楽家や若手音楽家と連携し、足を運べない方も気軽に上質な音楽芸術に触れる機会の提供を実現させていきます。
ケアプラザ等連携	適宜	各施設のミッションに沿った要望、適切な内容を検討・吟味しながら、引き続き連携を発展させていきます。各施設の企画を区民文化センター内で実施するという方向性でも連携を進めます。

I. 第3期の施設運営活動の基本方針

1. 施設運営活動の基本方針

第3期の施設運営は、使命1の達成を中心とします。青葉区民文化センターは、地元で演奏活動を行う演奏家はもちろん、アマチュアの音楽愛好家や音楽を学ぶ学生が日々の練習・日頃の成果を発表する場であり、地域の人々が集える場として、常に利用者ファーストの対応を心掛け、最善のパフォーマンスを発揮できる環境を整えます。今期は、施設利用の促進からさらに踏み込み、施設を利用する地域の団体やアーティストに、地域の様々な施設における「活動拠点」としての場を提供する役割も果たすべく、地域ネットワークを通じて団体・個人が活動範囲を拡げられる支援を行い、本施設が地域拠点及び団体・個人とを媒介するコーディネーター役を務めます。今期の最終目標として、演奏家や団体のデータベースを構築し、誰もが閲覧できる環境を整えることで、市民・アーティストの活動を支援していきます。

2. 施設運営活動と各使命との連動

第3期では、本施設の利用促進・利用満足度の向上、という基本軸に加えて、「地域施設での場の提供」「地域団体・アーティストの活動支援」を重視します。地域への活動の場提供は、使命4の「地域事業分野の達成」につながり、一方で活動支援は、使命2の「地域での活動家育成」にもつながります。令和7年は、施設全般そして文化事業、地域事業、施設運営での活動全体を俯瞰し、相互にさらなる連携を強化させる体制を強化します。

II. 令和7年(2025年)の施設運営活動

1. 施設運営の基本方針

区民文化センター条例及び横浜市民利用施設予約システム(以下予約システム)の規約に従い、公平公正な施設運営を継続します。令和6年から導入されたオンラインキャッシュレス決済について事務所対応・お客様対応とも柔軟に対応するとともに、令和7年より窓口でのキャッシュレス決済の対応を開始し、区民利用がスムーズに、かつ利便性が向上される施策を行います。「利用要綱」「利用の手引き」や「利用案内」は必要に応じ改編加筆修正を速やかに継続します。また使命6にある通り、疫病のほか災害対策の意識も徹底し、引き続き必要な対策・対応を行い、区民・市民の利用が継続していける施設運営を行います。

2. 適正な施設運営管理

●適切な利用料金と利用区分の設定

施設利用料金・利用区分について、別表1のとおり現行利用料金・利用区分の体系を継続します。利用者のニーズを把握しながら、ホールなどのインターバルの時間の有効活用と料金を引き続き検討していきます。また多数の不特定多数の区民が利用する公共施設であるという側面から、稼働率向上だけでなく、適切な利用の促進、利用におけるワンランク上の満足度の向上に向けた取り組みを行い、区民の需要を見定めながら、区をはじめ各所と協議の上対応を検討していきます。

●優先予約の考え方

施設の優先利用について市・区との協議を行い、一定の許可基準や年間での利用可能枠などを定め、利用要綱及び利用要綱細則(内規)に定めていきます。場の提供としての支援と一般利用との公平性を考え、詳細を協議していきます。

●利用者ニーズの適正把握

利用者アンケート回収率向上のため、利用人数報告用紙とは別に匿名アンケートを常時設置し、要望・意見に対する対応を掲示し、対応の「見える化」を進めていきます。また、利用者意見交換会について改めて開催を検討していきます。

3. 活動・体験の場の提供の促進

◎稼働促進策

●ホール空き日の有効利用

従来からのシリーズ企画「ピアニストの夢」と「カゲレン」は、引き続き稼働状況に応じ適宜開催します。「ピアニストの夢」ではスタインウェイピアノを演奏できる貴重な機会の創出、令和5年に導入したヤマハグランドピアノCFXの利用促進にも活用します。

●リハーサル室の積極活用

活動発表の場としてのリハーサル室での稼働促進サービスを引き続き検討します。これまで実施してきた「定期利用」は、平等性の保たれた規定を継続の可否を含め再検討するとともに、公募型の「区民企画」と合わせて、地域の個人・団体・アーティストが気軽にチャレンジできる機会の提供とサポートを行います。

4. アーティストデータベースの整備

これまで区民文化センター出演者として蓄積してきたアーティスト情報や、公募による活動団体の情報等をデータベースに集約する試みは対応が遅れていましたが、令和7年度より本格的に情報公開を進めていきます。地域の音楽文化振興とアーティストにおける活動の場を提供・支援するためのツールとして活用したいと考えています。様々な当事者からの情報を集約し、登録したアーティスト・団体を外部へ紹介する手段等については、他施設事例ももとに検討の上、可能な範囲からの稼働を進めていく予定です。

5. 令和7年度(2025年)年間利用率目標

ホール	80%	リハーサル室	92%	練習室1	91%	練習室2	92%	練習室3	90%
-----	-----	--------	-----	------	-----	------	-----	------	-----

I. 第3期の施設管理活動の基本方針

1. 施設管理活動の基本方針

施設管理活動とは、施設の維持管理と、その基礎となる収益や人事・規則の管理の総合的な意味を持ちます。第3期の施設管理では、使命5・6の達成を中心とします。感染症や災害など不測の事態に対応し、日常管理を徹底することで、SDGsに取り組み「持続可能な施設運営」を行います。指定管理運営の基本となる安定した収益構造を確立させ、各事業分野が積極的に活動を展開するための「組織」「役割分担」そしてその相互連携を踏まえた管理運営を行います。施設の維持管理でも、経年劣化の進み中で、不測の事態を招かないための活動と継続して維持していくための必要な修繕改修を計画的に実行していきます。

2. 施設管理の基礎となる総務管理的部分の方針

第3期で組織体制を一部変更し、新たに選任された「副館長」は、2年目の令和6年(2024年)で館長に昇格します。館長は事業総括責任者としても機能し、文化・地域・施設運営の各事業を総括的に俯瞰し、各事業の連携をさせていきます。また第3期からは施設管理運営サービス向上のため、舞台管理要員を1名増員し、開館時間内は舞台設備・備品等の管理ができる体制を取ります。共同事業体各社からの要員は、青葉区民文化センタースタッフとして、フラットな組織の下、全員が連携協働して施設を管理運営します。

3. 持続可能性を高める施設の維持管理の基本

第3期のビジョンとして掲げた『“ひと”と“まち”の未来へー文化でつなぐステーション』を念頭に、維持管理業務を通じて、本施設を安心・安全・快適に楽しめる場(ステーション)とすることで、利用者・来場者に高いホスピタリティを提供し、幅広い方が訪れる施設を目指します。「安全・安心」と「快適」を提供するために重要なのは、施設全体の状況を常時、的確に把握し、発生した事象に迅速に対応できる体制の構築と、些細なことでもスタッフ間で共有し合える関係性を築くことです。

II. 令和7年(2025年)の施設管理

1. 使命5「持続可能性を高める施設運営」のための施設管理

● 予防保全による安全・安心・快適な環境提供

予防保全を実現するために、日々使用時の点検(日常点検)と定期的な専門会社による点検(定期点検)を確実に実施し、点検内容を確認・検証することで修繕の必要性を判断します。「安全・安心」と「快適」を提供するため、施設の状況を常時的に把握し、発生した事象に迅速に対応できる体制の構築は常に必要です。スタッフ同士が密に連携することで、総合的なマネジメント力を発揮し、維持管理業務を的確・スムーズに行います。状態監視にて故障を予見する「予知保全」の仕組みを取り入れ、経年劣化による損傷等を最小限に抑えていきます。

● 舞台設備保守・備品管理

ホールという特性上、特にピアノや舞台設備、客席の保守管理が重要です。日常点検とは別に、定期的な専門会社による定期点検も確実にを行い、点検内容を確認・検証することで、適切な予防保全を実現します。ピアノに関しては、各ピアノメーカー専門技術者による保守点検を行い、舞台設備等も専門の舞台スタッフによる定期的かつ専門的な保守点検を行うことで、利用者満足と来場者の安全確保に努めます。第3期2年目より新規導入のヤマハグランドピアノCFXについては、高水準な質を保つための施策を検討するとともに、一般利用、自主事業等での利用促進を行っていきます。2期までの管理で蓄積されたノウハウをもとに、設備の状況や施設の汚損度を正確に分析し、最適な維持管理計画を策定することで「安心・安全の確保」と「施設の長寿命化」を実現します。

● 適切な清掃計画による美観維持

日常清掃、定期清掃、特別清掃の適切な組合せにより、こまめな清掃で、美観・環境の維持に努めます。日常清掃では、汚れやシミ等をチェックし、定期清掃でカーペットや床の清掃を行います。日常・定期・特別の組み合わせにより美観及び環境の維持に努めます。

● 横浜市・青葉区との連携・協議による経年劣化対応

青葉区民文化センターは、開業30年を経過し、照明・音響設備や防犯カメラ、空調の経年劣化が著しく、部品等は入手に時間を要し、緊急対応が困難な状況が生じる恐れがあります。予防保全、小破修繕による延命措置と並行し、抜本的な対策として、横浜市・青葉区の保全更新計画と予算措置を連動させた更新改修工事による施設の長寿命化を目指します。第3期4年目に実施予定の大規模空調改修工事に向けた準備を進めていく予定です。

● 小破修繕・設備改善への考え方

年間修繕費では、前述の抜本的とは別に、日常的に不具合を補修し、劣化対応等を検討していきます。必要な機材の更新には高額となるような場合は新規リース等も視野に入れ対応していきます。SDGsの観点、幅広い来場者受入の観点からも、ユニバーサルデザイン対応は施設の使命として取り組むべき課題です。サイン等の見直し、段差等でのバリアフリー対応など、来場者が快適に館内を利用できる空間作りを行います。

● 光熱水費の高騰に対する対策

光熱水費の高騰に対する事前対策を引き続き進めていきます。第2期の天井工事期間中に行った主要な照明機器のLED化に加え、第3期3年目では、非常誘導灯など残る未LED化の箇所も横浜市ESCO事業によりLED化を進め、点灯範囲の見直しも含め省エネ対策をさらに進めて行きます。単価上昇に対する対策は、指定管理料の見直しを含めた必須検討事項と考えています。

2. 使命6「不測の事態(諸感染症、災害等)を想定した施設運営継続のための施設管理

不特定多数の方が訪れる施設にとって最も重要なのは、何よりも安全・安心な環境を保つことです。新型コロナウイルス感染症の他、令和6年末のインフルエンザ蔓延などを踏まえ、引き続き平時・緊急時の利用ルールの見直しと徹底、必要な備品導入等、利用者が安全安心に施設を利用できるよう、対策に取組みます。

● 感染症対策

引き続き脅威となりえる新型コロナウイルス以外にも、令和6年(2024年)末に大規模蔓延を引き起こしたインフルエンザ、またノロウイルス、麻疹等の重篤な感染症を発生させない／発生した場合に運営への影響を最低限にする対策・体制構築を図ります。従来の感染症に対する既存の汚物処理キットの補充や、スタッフが迅速に対応できるようマニュアル整備および研修を行います。

● 防災マニュアル等の整備

能登半島地震をはじめ頻発する地震、また商業施設内で起こりやすい火災などの影響も鑑み、現在のマニュアルで想定している被害規模や緊急時の対応方針を見直し、より緻密で実用的なマニュアルへの改編を進め、研修を行います。改編にあたっては、共同体各社が独自に策定している地震対応マニュアル等も踏まえて改編します。防犯体制では引き続き青葉台東急スクエアの警備体制と連携しながら、施設専用部分での不測の来館者のケガ・病気等緊急時の対応について、連絡方法や緊急対応などをまとめたマニュアルの整備に取組み、迅速に対応できるよう職員向けの研修を行います。

● BCP計画の見直し

大規模地震等を想定したBCPに加え、大規模感染症に対応したBCPも整備し、スタッフの要員確保や利用の確保、施設開館の継続など、具体的な事象を想定しながら策定します。

Ⅲ. 収支構造、運営組織

別紙:組織図・名簿参照

1. 収支構造と継続安定化

● 安定した収入確保:事業収入と利用料収入の安定化

施設運営の基盤である収益の安定化を重要視します。青葉区民文化センターは「自主事業収入」の比重が相対的に大きいため、引き続き券売ルートの開拓、メンバーズ会員の購買意欲向上促進による自主公演収入の安定化、また施設利用率の向上を図り、利用料金収入増を目指します。

● 適正な費用支出

引き続き、広報物の内製化、省電力化、効率的修繕、事務費の抑制等により、支出の適正管理を徹底します。

● 収支見通しと令和7年(2025年)の収支予算

令和7年(2025年)においては、コロナ禍が落ち着き、再開館以降の稼働状況も安定していることから、前年令和6年(2024年)に近い収支見通し計画を立てています。不測の事態により休館・開館時間制限、人数制限等が発せられた場合は、利用者の安全を最優先し、市及び区と協議のうえ、対応方針を決定します。

2. 運営組織の構造・人材育成

● 組織体制

利用者の安全・安心を確保し、心地よく快適な利用者サービス、文化芸術の発信、地域を繋ぐ地域事業の充実・拡充が実現できる体制を目指し、共同事業体各社から各分野におけるプロフェッショナルな人材を配置します。
令和7年度は前年度に副館長から昇格した館長が、引き続き豊富な経験により、文化・地域・施設運営の各事業を統括します。職員の配置において、より充実した事業展開を図るための体制を敷きます。一方、施設管理責任者・事業企画担当に新たな職員が就任し、それぞれ豊富な文化事業経験を生かした職員が自らの強みを生かして業務に従事します。また文化事業コーディネーターの後任に前事業企画担当者が就任し、地域コーディネーターと共に新たな事業展開に臨みます。そのほかの業務責任者・担当者は留任します。舞台管理のスタッフは4名が登録し、舞台スタッフが営業時間中に常に出勤し、設備備品や舞台の終業管理を担当できる体制とします。

● 一体感のある運営組織にするための取組み

各々定期的に各種会議体を開催し、それぞれの目的に応じた情報共有、課題の認識・解決を行います。

主要な会議体

会議体	課題内容	頻度	会議体	課題内容	頻度
青葉区定例会議	事業収支報告・情報共有	年4回	マルチスタッフミーティング	課題共有・意見交換	適宜
共同事業体会議	事業収支報告・情報共有	年4回	課題対応ミーティング	課題共有・意見交換・協議	適宜
事務所ミーティング	業務進捗予定・課題協議	年6回	朝礼・昼礼	課題共有・意見交換	毎日

● スタッフ育成と業務知識の習得

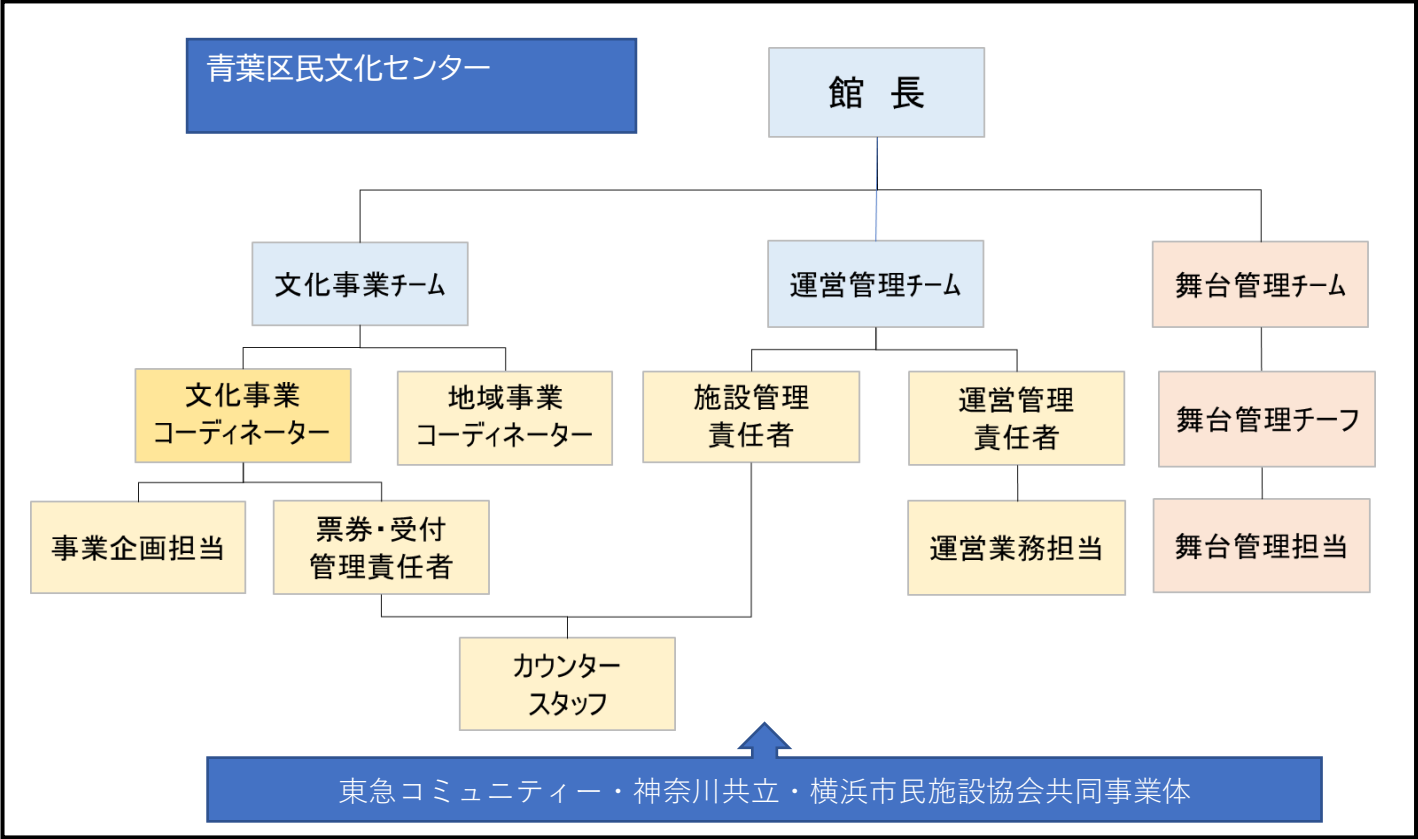
利用者対応、予約システム、発券システム、総務広報、金銭管理等の各業務についてマニュアルを整備しており、マニュアルを通じて業務の基本的知識を養います。適宜マニュアルを整備・更新することで、業務レベルの向上を図ります。

主な研修プログラム・・・基本は年1回を原則とし、年度ごとに実施項目は変化させる

接客接遇	接客接遇	クレーム対応	サービス介助	高齢者体験	障がい者対応
法令遵守	人権・LGBT	コンプライアンス	個人情報保護		
安全衛生	防火防災	救急救命	感染症対策	舞台設備基礎	環境保全
外部一般	外部団体講習	他施設交流			

別紙 組織体制及び要員名簿（令和7年度(2025年)）

◎要員体制について
第3期2年度目より、初年度設置の「副館長」が「館長」に就任し、館長職に加えて、各事業の総合管理統括を担当しています。令和7年度では、施設管理責任者が前任者退職により新任職員が着任、事業企画担当者が前任者退職により文化事業コーディネーターに異動し、事業企画担当を新たに採用補充します。
「組織体制図」



令和7年度 青葉区民文化センター職員名簿

役 職 (職 種)		氏 名	住 所 (在住区名まで)	備 考 (メイン担当を記載)
1	館長	芥川 純一		
2	文化事業コーディネーター			
3	地域事業コーディネーター			
4	運営管理責任者			
5	票券受付責任者			
6	施設管理責任者			
7	運営業務担当			
8	事業企画担当			
9	舞台技術チーフ			
10	舞台技術担当			
11	舞台技術担当			
12	舞台技術担当			

「別表1」 【青葉区民文化センター・フィリアホール施設基本使用料一覧表】

【単位:円(税込み)】

ホール利用料金

(要綱第15条)

ホール 500席 1階384席 2階116席	用途	曜日	区分	(9時～10時) ※調律のみ	10時～12時	13時～17時	(17時～18時)	18時～22時
	入場料 徴収	平日	時間帯料金	(6,800)	18,500	37,500	(10,000)	41,500
			10時～17時		56,000			
			13時～22時			79,000		
			10時～22時		97,500			
	録音・撮影 (営利目的)	土日 休日	時間帯料金	(8,000)	21,500	46,500	(11,500)	46,500
			10時～17時		68,000			
			13時～22時			93,000		
			10時～22時		114,500			
	入場料 無料 録音・撮影 (非営利・個人 趣味利用等)	平日	時間帯料金	(4,000)	10,500	22,500	(6,000)	24,500
			10時～17時		33,000			
			13時～22時			47,000		
			10時～22時		57,500			
		土日 休日	時間帯料金	(4,800)	13,500	28,000	(6,500)	27,500
			10時～17時		41,500			
			13時～22時			55,500		
			10時～22時		69,000			
楽屋	楽屋1、2(18㎡)		10時～17時		500	800	(200)	800
	楽屋3、4(26㎡)		13時～22時		800	1,100	(200)	1,100
	楽屋5 (36㎡)		10時～22時		1,000	1,600	(400)	1,600

別表2 リハーサル室・練習室利用料金

(要綱第15条)

名称	面積定員	曜日	10:15～12:15	12:45～14:45	15:00～17:00	17:30～19:30	19:45～21:45
リハーサル室	(71.5㎡)	平日	2,350	2,350	2,350	2,700	2,700
	(80人)	土日・休日	2,850	2,850	2,850	3,000	3,000
練習室1	(24㎡)	平日	600	600	600	650	650
	(10人)	土日・休日	700	700	700	750	750
練習室2	(24㎡)	平日	600	600	600	650	650
	(10人)	土日・休日	700	700	700	750	750
練習室3	(27㎡)	平日	650	650	650	750	750
	(10人)	土日・休日	800	800	800	850	850

別表3 ホールの練習・リハーサル使用料金 (要綱第15条・利用細則第5条)

ホール 500席 1階384席 2階116席	用途	曜日	区分	(9時～10時) ※調律のみ	10時～12時	13時～17時	(17時～18時)	18時～22時
	練習利用 割引適用 の30%減免 後	平日	時間帯料金		7,350	15,750		17,150
			10時～17時		23,100			
			13時～22時		32,900			
			10時～22時		40,250			
		土日 休日	時間帯料金		9,450	19,600		19,250
			10時～17時		29,050			
			13時～22時		38,850			
			10時～22時		48,300			
	リハーサル 利用 割引適用 の30%減免 後	平日	時間帯料金		7,300	15,700	(4,200)	17,100
			10時～17時		23,000			
			13時～22時		32,800			
			10時～22時		40,200			
		土日 休日	時間帯料金		9,400	19,600	(4,550)	19,200
			10時～17時		29,000			
			13時～22時		38,800			
			10時～22時		48,300			

別表2

維持管理年間計画(通年)

	業務	内容	頻度	実施詳細
機械設備	空調設備総点検	定期点検	1回/年	全室空調設備の総点検
	空調設備フィルター保守	定期点検	1回/年	事務所空調機フィルター清掃
舞台設備等	舞台設備保守管理点検	定期点検	3回/年	舞台吊物等メンテナンス
	照明設備保守管理点検	定期点検	2回/年	舞台照明設備メンテナンス
	音響設備保守管理点検	定期点検	1回/年	音響装置メンテナンス
	ITV設備保守管理点検	定期点検	1回/年	映像設備メンテナンス
	ホール客席保守点検	定期点検	1回/年	指定業者により実施
ピアノ保守等	ピアノ保守管理(ホール) (スタインウェイ2台)	定期点検	各1回/年	納入ピアノメーカーの技術研修を受け、保守管理に精通した技術者による保守点検
	ピアノ保守管理(ホール) (ヤマハグランドピアノ1台)	定期点検	1回/年	
	ピアノ保守管理(リハーサル室) (ヤマハグランドピアノ1台)	定期点検	1回/年	
	ピアノ保守管理(楽屋3) (ヤマハアップライト1台)	定期点検	1回/年	
	ピアノ保守管理(練習室2・3) (ヤマハアップライト2台)	定期点検	1回/年	
	ピアノ調律(ホール)※1 (スタインウェイ2台)	調律	使用時	納入ピアノメーカーの技術研修を受け、保守管理に精通した技術者による調律 ※保守点検時に調律実施。
	ピアノ調律(ホール)※2 (ヤマハグランドピアノ1台)	調律	3回/年	
	ピアノ調律(リハーサル室) (ヤマハグランドピアノ1台)	調律	11回/年	
	ピアノ調律(楽屋3) (ヤマハアップライトピアノ1台)	調律	5回/年	
	ピアノ調律(練習室2,3) (ヤマハアップライトピアノ2台)	調律	5回/年	
清掃等	日常清掃業務	—	毎日	施設内清掃
	定期:床洗浄・ワックス塗布		1回/3ヶ月	
	定期:カーペット洗浄		1回/年	
	定期:窓ガラス(内面)		6回/年	
	特別:状況により		1回/年	汚れ、劣化の状況により実施
環境管理	ホール環境測定(空調・温度)		4回/年	空調・温度環境測定
	ホール環境測定(照度)		2回/年	照度測定
	害虫駆除※3		2回/年	バーカウンター等の害虫駆除
小破修繕		—	適宜	

※1:ホールスタインウェイグランドピアノは、定期保守調律以外に、使用時に調律必須(施設利用者負担)・自主は管理者負担

※2:ホールヤマハグランドピアノは、定期保守調律に加えて、年3回は調律を管理者負担で実施。使用状況により不定期に実施する場合もある。(なお原則として、施設利用者の使用時の負担なし・調律希望の場合は有料)

※3:環境管理中の害虫駆除は、定期清掃時バーカウンター内を年1回実施。必要に応じて、ホール内、楽屋給湯室等を1回追加する場合がある。

※ビル法定点検・測定及び防火対象物点検等はビル側にて実施。